

思い出のランドセルギフト

アフガニスタンの女の子へ学ぶ機会とエールを届ける

日本で役目を終えたランドセルに「寄付」という選択肢



ランドセルの寄贈方法

- 1 ランドセル 1 個につき2500円の海外輸送費募金を振り込む
- 2 ランドセルを指定倉庫に送付する (送料は寄贈者負担)

詳細はジョイセフのホームページへ
<https://www.joicfp.or.jp/jpn/donate/support/omoideranse/>

「思い出のランドセルギフト」とは、日本で役目を終えたランドセルをアフガニスタンの小学校で配付し、子どもたち、特に教育の機会に恵まれない女の子の就学に役立てる国際支援活動です。2004年の開始以来、27万個以上の日本のランドセルがアフガニスタンへ贈られました。女の子と男の子が同じようにランドセルを背負って学校に行く姿は、地域に住む大人たちへの「教育を受ける大切さ」を伝えるメッセージとなっています。「わが子も学校に行かせたい」というモチベーションが生まれ、子どもたちが学校に行くきっかけづくりに役立っています。この活動は、2024年で活動20周年を迎え、これまでに小学校道徳の副教材や中学校の英語の教科書、小学4年生の国語の教科書で（令和5年度まで）紹介されています。

タリバン政権下のアフガニスタンでは、女の子は中学校以上の教育が禁止されており、唯一許可されている小学校でも、4割しか卒業できていません。文字の読み書きができないことによって、仕事を持つことが難しいだけでなく、大きくなって結婚や出産を経験しても、自分や家族の命と健康を守るための正しい知識を得ることができないのです。

日本から届くランドセルは、男女平等に配付され、男の子も女の子も一緒にランドセルを背負って小学校へ通うきっかけをつくってきました。

長い紛争で荒廃したアフガニスタン。タリバン復権後は国際社会から孤立し、度重なる豪雨や洪水の影響も重なって、人々は飢えと貧困に苦しんでいます。お金のために民兵になる若者や、幼い娘を結婚させる家族。その荒んだ日常に日本から届くランドセルは、子どもへの教育という未来への希望、平和の象徴として、人々に喜ばれてきました。

女性への制圧や教育・就業の制限が懸念される今、ランドセルを贈り続ける意味がよりいっそう大きくなっています。

国際協力NGO ジョイセフとは

ジョイセフは、世界の女性の命と健康を守るために活動している日本生まれの国際協力NGOです。1968年創立。これまで半世紀以上にわたり、40以上の国と地域で、妊娠・出産・中絶によって亡くなる女性を減らすための支援、意図しない妊娠を防いで女性の人権を守るための家族計画の推進、HIV/AIDSを含む性感染症の予防、SRHR*推進のための啓発や教育、アドボカシーを行ってきました。2017年に第1回ジャパンSDGsアワードのパートナーシップ賞を受賞。毎月定額寄付で活動をサポートする「ジョイセフフレンズ」も募集しています。

※ Sexual Reproductive Health and Rights : 性と生殖に関する健康と権利